公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信(No.99)uniwish26号(2018年1月)
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号
（電話・FAX）０９５２－２８－２０７７
（業務時間）　月・火・木・金 10：00～15：00
E-mail　unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ　http://www.saga-unicef.jp/
facebook　http://www.facebook.com/unicef.saga

「Every Child Alive」
赤ちゃんを守ろう世界キャンペーン開始

© UNICEF/UN076876/Sharma
生後10カ月の女の子。(インド)2017年7月撮影

元日に生まれる赤ちゃん、約38万6千人
2016年の新生児(生後1カ月以内)死亡は260万人

すべての子どもが生き抜ける世界へ、ユニセフ新たな決意

【2018年1月1日　ニューヨーク発】

2018年の元旦、世界で約38万6,000人の赤ちゃんが誕生するだろうと、ユニセフ（国連児童基金）は本日述べました。
そしてその9割を超える子どもたちは、発展途上地域で生まれるとされています。

元日に生まれる赤ちゃん

2018年最初の赤ちゃんはキリバス共和国のクリスマス島で生まれ、同日最後の赤ちゃんは米国で生まれることになるでしょう。この日世界で生まれる赤ちゃんの半数以上は、以下の9カ国で生まれると推定されています。

インド：69,070人、中国：44,760人、ナイジェリア：20,210人、パキスタン：14,910人、
インドネシア：13,370人、アメリカ：11,280人、コンゴ民主共和国：9,400人、エチオピア：9,020人、
バングラデシュ：8,370人

多くの赤ちゃんが生き残る中で、生まれたその日を生き抜くことのできない赤ちゃんもいるでしょう。2016年、毎日推定2,600人の子どもが、生後24時間以内に亡くなりました。約200万人の新生児にとって、生後第1週目が人生最後の週になりました。合計すると、260万人もの子どもが、生まれて1カ月経たないうちに命を落としたのです。これらの子どもたちの8割以上は、予防や治療が可能な原因、すなわち早産、出産時の合併症、敗血症や肺炎などの感染症を理由に亡くなっています。

「ユニセフの新年の決意は、すべての子どもが、1時間以上、1日以上、1カ月以上長く生き、生き抜いて成長していけるよう支えること」とユニセフ本部保健部長のステファン・ピーターソンは述べました。「政府やパートナー団体に呼びかけ、数百万人もの子どもの命を守るために、実績のある、低費用の解決方法を用いて取り組んでいきます」

この20年間で世界の子どもの生存率は大きく上昇し、5歳未満児の死亡数は2016年で年間560万人にまで削減されました。しかし、新生児の生存率の向上は遅く、5歳未満児死亡数の46%は生まれてひと月目に生じています。

赤ちゃんを守ろう世界キャンペーン開始

来月、ユニセフは「Every Child Alive」と題する赤ちゃんを守るための世界キャンペーンを開始し、支払える費用で、質の高い保健医療サービスをすべての母親と新生児に届けることを訴え、かつ、実行します。これには、保健施設での安全な水や電気の安定した供給、専門の技能を持つ保健スタッフの出産立会い、へその緒の消毒、生まれて1時間以内の授乳、母子の早期の肌と肌のふれあいが含まれます。
「世界のすべての赤ちゃんが22世紀の世界を見る機会を持つべき時代に入っています」とピーターソンは述べました。「しかし残念ながら、今年生まれる約半数の子どもたちはそれが叶わないでしょう。2018年1月にスウェーデンで生まれる子どもは2100年まで生きる可能性が高い一方で、ソマリアで生まれる子どもは2075年を超えて生きる可能性が低いのです」※推定出生数および平均余命は、『国際連合世界人口予測 2017年改訂版』の指標をもとに、World Data Lab（WDL）による計算方法を用いて算出。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

ロヒンギャ危機/ミャンマー・ラカイン州　　社会サービスを失った北部の人々

© UNICEF/UN0155430/Thame
栄養不良の検査を受ける女の子(2017年12月21日撮影)

【2018年1月9日　　ジュネーブ発】

本日、国連ジュネーブ事務所における定例プレスブリーフィングで、ユニセフ（国連児童基金）の広報官マリキシ・メルカドは、訪問したミャンマーのラカイン州のロヒンギャの子どもたちの状態について下記の通り報告しました。

社会サービスを失った北部の人々

私は昨年12月6日から今年1月3日までミャンマーに滞在し、ほぼ半分の時間をラカイン州で過ごしました。昨年8月に暴力が勃発し、その圧倒的多数をロヒンギャの人々が占める65万5,000の人々が家を追われ国境を越えてバングラデシュに逃れることを余儀なくされたラカイン州北部を訪問しました。また、2012年から12万人以上のロヒンギャの人々が足止めされている不衛生な避難民キャンプや、移動の自由や基本的社会サービスへのアクセスがより制限された状態で約20万人が暮らしている村々があるラカイン州中部も訪問しました。

Maungdow町は、最近の暴力の傷跡を色濃く残しています。ブルドーザーで押しつぶされた広大な土地、ほとんどが閉店している商店、歩く人がまばらな通り、ほとんど目にすることのない女性とさらに少ない数の子どもたち。昨年8月25日以前には約44万人が暮らしたMaungdowの町に、今でも残っている人々の数は約6万人と推計します。農村部に暮らすロヒンギャの子どもたちはほぼ完全に孤立しています。ロヒンギャとラカイン州のコミュニティの双方の子どもたちの間で、心をむしばむような高いレベルの恐怖が存在することを聞きました。

ユニセフは、ミャンマー政府およびラカイン州政府と協力して、すべての子どもたちに対して、彼らの民族、宗教、地位、および状況に関わらず、彼らが必要としている保護と支援を届けるための準備ができています。その実施のためには、直ちにラカイン州全土への定期的かつ制限されないアクセスが必要です。

移動の制限が支援の足かせに

世界の注目がラカイン州北部とコックスバザールに集まる中、ラカイン州中部で2012年の暴力により23カ所の避難民キャンプに追い込まれた子ども6万人以上のことはほとんど忘れ去られています。以前から制限されていたキャンプの出入りは、2016年10月さらに2017年8月の暴力の勃発以降はより厳しくなり、人道支援従事者が子どもたちに支援を届けることをさらに困難にし、キャンプでのすでに貧しい状況をさらに悪化させました。

キャンプの中には劣悪な環境下にあるものがあります。Pauktaw Township にあるNget Chaung 1と 2 に辿り着けるのは水路のみで、地域のボートを使用し4～5時間かけて支援物資を届けていました。キャンプは海抜より低い土地にあり、樹木もほとんど生えていません。（高床式の）仮設住居はゴミや汚物の上に組まれた支柱の上で揺れています。あるキャンプでは、人々が水を汲む池は汚水池と隣あっていて、泥でできた低い壁のみで仕切られていました。子どもたちは汚物の中を裸足で歩きます。キャンプ・マネージャーの1人は、12月1日～18日の間に3歳～10歳の子ども4人の死亡を報告しました。

移動の制限は、ロヒンギャの人々にとってキャンプを出て医療ケアを受けることは非常に難しいということを意味しています。移動許可の申請にはキャンプに暮らすほとんどの人々には払うことができない費用がかかります。多くの場合親族は患者の同伴を許可されません。一度入院すると、ロヒンギャの人々は立ち入りが制限された場所に閉じ込められ、外部との接触を禁止されます。そのため人々は、伝統療法の治療者、訓練を受けていない医師や、セルフメディケーションに頼るしかなくなっています。基本的な生活環境および命を守るためのサービスへのアクセスの改善が喫緊に必要とされています。

教育への影響も

移動の制限は、キャンプに暮らす子どもたちの可能性を脅かしており、特に影響を受けているのが教育の分野です。ほとんどの学習は、不十分な設備の仮設学習教室において、意識は高いものの正式な訓練をほとんど受けた事のないボランティア教員によって行われています。彼らを受け入れる高校は近くにはなく、多くのキャンプが位置する州都シットウェにある１校のみが、ロヒンギャの10年生から12年生を受け入れています。

ラカイン州の少数民族の子どもたちは、何年ものコミュニティでの暴力と分断による深刻な影響を受けてきました。私たちは長い間、ラカイン州およびミャンマー全土の子どもたちへの、より公平で包括的なアクセスのために力を注いできました。私たちは、子どもは子どもであり、必要とするすべての子どもたちが支援を受けられるべき、という原則を守っています。私たちは、子どもたちがより良い生活を送り、明るい未来を期待できるように、国際社会に対して、特に地域の組織や国々に対して、彼らの影響力を発揮するよう求めます。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

© UNICEF/UN0155432/Thame
ユニセフが支援する仮設教室での子どもたち。(2017年12月18日撮影)

危機下にあるロヒンギャ難民の子どもたちと家族に、人道支援活動を届けるユニセフの活動を支えるため、日本ユニセフ協会は「ロヒンギャ難民緊急募金」を受け付けています。みなさまの温かいご協力をお願いいたします。

○　10月15日（木）～22日(日)　2017国際フェスタinさが　パネル展示
〈佐賀商工会館ロビーギャラリー〉

○　10月8日（日）ばぶばぶフェスタ2017『世界手洗いの日』キャンペーン①
ユニセフワークショップで参加　　〈アバンセ〉

※水のろ過実験　※ティッピータップ
※紙芝居「ばいきんバイバイ大魔王」
※手洗いダンス

佐賀女子高等学校インターアクト部の協力

○　10月11日（水）「幸せの黄色いレシートキャンペーン」参加〈佐賀市：イオン佐賀大和店〉

○　10月18日（日）　2017『世界手洗いの日』キャンペーン②　＜川原保育所2・3・4・5歳児＞
※紙芝居「ばいきんバイバイ大魔王」
※手洗いダンス　　※実際に石鹸を使って手洗い体験

佐賀女子高等学校普通科　保育専攻の学生25名の協力

○　11月11日（水）　11月22日(水)　ドリームパーク　“水から世界を考えよう！”仁比山小学校「ゆめ組」「ほし組」
○　11月25日（土）　SaNNネットワーク公開講座で講話　『子どもの貧困について』　＜佐賀市：国際交流プラザ＞
○　11月25日（土）　第39回　ユニセフ・ハンド・イン・ハンド街頭募金活動　　＜スーパーイオンセンター＞
○　11月26日（日）ＳＤＧｓ　第1回「絵でつたえよう『わたしたちの地球』を守る絵画展　表彰式及び入賞作品の展示
佐賀城本丸歴史館　　御座の間、二の間　　【詳細はＰ6～Ｐ7に掲載】
○　11月29日（水）ユニセフ出前授業　佐賀市立北川副小学校人権集会　1年生～6年生　　〈佐賀市立北川副小学校〉
「世界の友だちとわたしたち」
○　12月1日（金）～8日(金)ＳＤＧｓ　第1回「絵でつたえよう『わたしたちの地球』を守る絵画展　　1週間展示
＜佐賀市立図書館　２Fロビーギャラリー＞
○　12月10日(日)・17日(日)・24日(日)・25日(月)　第39回　ユニセフ・ハンド・イン・ハンド街頭募金活動
【詳細はＰ4～Ｐ5に掲載】
○　12月21日（木）ソロプチミスト佐賀西部で講話　＜武雄市：センチュリーホテル＞　　「ユニセフと世界の子どもたち」
○　12月26日（火）　佐賀子ども劇場「子ども夜市」から収益の一部を寄付　贈呈及び研修会　〈佐賀市：赤松公民館〉

unwish

ご支援
ありがとうございます

麻生外語観光＆製菓専門学校ブライダル・ウエディング科様　母子草様　トヨタ紡織九州レッドトルネード様
最所法律事務所様　国府団地花みずき通り様　㈱みうつか様　ようどう館佐賀校様　ようどう館大和校様
川崎自工様　旅館あけぼの様　団野法律事務所様　佐賀リハビリテーション病院様　えんぴつ館様　東洋館様
ドゥース様　サンシャレ―様　三瀬そば様　いっせい麺処様　西国御領風羅坊様　㈱北島様　村岡屋駅南店様
村岡屋卸本町店様　佐賀空港壱番館様　レストランカンフォーラ様　ANA FESTA様　佐賀ギター音楽院様
モンテカルロ太陽本庄店＆医大通り店様　山小屋ラーメン南佐賀店様　アルタ開成店様　アルタ高木瀬店様
れすとらん志乃県庁店様　ガイルス・ライブハウス様　菖蒲ご膳様　New・モア様　H&M Fido EXCEL様
H&M EXCEL W.E.N.S様　佐賀子ども劇場様　佐賀市役所川副支所民生児童委員協議会様　ぎょうざ屋様
佐賀市文化会館様　栗原内科消化器科医院様　グランデはがくれ様　佐賀シール工業様　TSUTAYA鍋島店様
ホテルマリターレ創世様　ふくしま薬局通小路店様　ファミリーマート大和尼寺店様　恵比寿鍼灸整骨院様
ふくしま薬局通小路店様　多布施クリニック様　矢山クリニック様 北川副小学校様 ホテルニューオータニ様
浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟様

副島病院様　国際ソロプチミスト佐賀西部様　㈱イワフチ様　大塚製薬佐賀工場様　ヘルスランチあららぎ様
㈲蓮池衛研工業様　小城市立まちなか市民プラザ様　佐賀大学スーパーネット様　ヒューマンドレミ様
高齢・障害・求職者雇用支援機構佐賀支部様　本庄公民館様　富安造園様　佐賀県造園協同組合様
藤川歯科医院様　第一生命労働組合佐賀支部様　佐賀市役所河川砂防課様　田中電子工業様　佐賀友の会様
栗山医院様　佐賀大学医学部基礎研究棟様　第一生命様　㈱ウチダ様

イオンスーパーセンター佐賀店様　ゆめタウン佐賀店様　佐賀玉屋様　イオンモール佐賀大和店様
ホームワイド佐賀大和店様　イオン上峰ショッピングセンター様　コープさが新栄店様　ゆめマートさが様
鹿島Aコープララベル店様　上峰小学校様　ボーイスカウト鹿島第１団様　ボーイスカウト佐賀第5団様
三養基高等学校様　佐賀西高等学校様　佐賀学園高等学校 佐賀清和高等学校様　佐賀北高等学校様 水の会様
佐賀女子高等学校様　高志館高等学校様　致遠館高等学校　（順不同：2017年10月8日～2018年1月15日）

※　いろいろな形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが
この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。

活動詳細

第39回ユニセフ　ハンド・イン・ハンド募金活動
「子どもたちに生きるチャンスを」

（日本ユニセフ協会HPより）

『2017年度　ハンド・イン・ハンド』は、
総額 2,082,017円 でした。たくさんのご協力
まことにありがとうございました。!!!

11月25日（日）	・イオンスーパーセンター佐賀店
12月10日（日）	・イオンモール佐賀大和店
	・ホームワイド佐賀大和店
	・ゆめタウン佐賀店
12月17日（日）	・コープさが新栄店
	・イオン上峰ショッピングセンター
	・佐賀玉屋前
	・ゆめマートさが店
12月24日（日）	・鹿島　Ａコープララベル店
12月25日（月）	・佐賀玉屋前
	・西友　佐賀店

☆2017年度の「ユニセフ・ハンド・イン・ハンド」街頭募金活動は5日間、11会場で実施しました。活動当日は北風の吹く寒い中での活動でしたが、ボランティアの皆様の熱い思いに支えられ無事に終了することができました。

☆2017年のボランティアで参加してくださった皆さんの特徴としては、小学生や高校生の参加がたくさんあり、どの会場からも子ども達や学生さん達の爽やかで元気な声が響きました。その元気な声に多くの方が足を止め「ご苦労様」の声掛けと募金をしてくださいました。

☆就学前の小さな子ども達から引率の保護者や先生方、ご高齢の方まで幅広い年代のボランティア協力で、総勢208名にものぼるご参加がありました。ボランティアの皆様は「ユニセフ募金にご協力をお願いしま～す！」「2円で一人の子どもに一年分のビタミンＡをおくることができます！」「ありがとうございま～す！」と元気な声で協力を呼びかけました。
ボランティアの皆様の熱い思いはお客様の心に届き、たくさんのご協力をいただきました。
ご多用の中に駆けつけてくださったボランティアの皆様、募金箱に温かいお気持ちをお寄せいただいた多くの皆様、快く会場をご提供くださった企業の皆様、まことにありがとうございました。

☆11月と12月の２ヶ月間にわたって実施した『第39回ユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金キャンペーン』では、個人・学校・団体・企業等々、多くの皆様方からたくさんのご支援をいただき、募金総額は2,082,017円にもなりました。ここに感謝を込めてご報告申し上げます。まことにありがとうございました。

☆ご協力いただいた団体・企業の皆様（順不同　※個人の方のお名前は控えさせていただきます）

〇ボランティア協力をしてくださった皆様
佐賀北高等学校様　高志館高等学校様　佐賀西高等学校様　致遠館高等学校様　佐賀学園高等学校様
佐賀清和高等学校様　三養基高等学校様　佐賀女子高等学校様　上峰小学校様
ボーイスカウト佐賀第5団様　ボーイスカウト鹿島第1団様　水の会様
矢ケ部小学校様　柳川市教育委員会様　浄土真宗本願寺派少年連盟様

〇会場をご提供してくださった企業様
イオンモール佐賀大和店様　ホームワイド佐賀大和店様　佐賀玉屋様　コープさが新栄店様
ゆめタウン佐賀店様　ゆめマートさが店様　イオン上峰ショッピングセンター様
イオンスーパーセンター佐賀店様　鹿島Ａコープララベル店様　西友佐賀店様

各会場風景

11/25 イオンスーパーセンター佐賀店

12/10　ゆめタウン佐賀店

12/10　イオンモール佐賀大和店
　　ホームワイド佐賀大和店

12/17　イオン上峰ショッピングセンター

12/17　佐賀玉屋

12/17　ゆめマートさが店

12/17　コープ　新栄店

12/24　鹿島　Aコープ　ララベル

12/25　浄土真宗本願寺派少年連盟様

SDGs　絵でつたえよう！『わたしたちの地球』を守る絵画展
～佐賀の子どもは　未来を見ている～　実施報告

持続可能な開発目標（SDGs）とは、

2015年9月に「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える首脳が参加して、2030年までの新たな目標となる「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」が採択されました。「持続可能な開発目標」は、今ある世界のさまざまな問題を解決し「人間がずっと地球に住み続けられるように開発・発展するにはどうしたらよいだろう？」と世界のみんなで考えた17の目標です。

2030年の地球をユニセフとともに考えよう

2030年に社会の一線にいるのは今の子ども達です。佐賀県ユニセフ協会では、17の目標の中から、身近な生活の中で自分にできる事やみんなで取り組みたいこと考え、絵に表わすことを通して、「『わたしたちの地球』を守ろう！」という気持ちを育てたいと考え、今回の絵画展を企画しました。

県内の小中学校の皆さんに作品募集をしましたところ、佐賀の子どもたちから多くの作品が寄せられました。地球に住むみんなの未来に向けたメッセージを絵に表現してくれました。

★　表彰式

今回は、第1回目の絵画展という事でSDGｓについての周知度もまだ低く、作品の応募数も少ないだろうと考えていましたが、佐賀県全域から多くの応募がありました。集まった作品からは、それぞれの目標に向けて“こうなったらいいなあ”と思うことや“課題解決に向けてみんなで取り組みたいこと”など自分の考えが絵に表現され、メッセージとして強く伝わってきました。

表彰式では、佐賀県ユニセフ協会の吉原専務理事のあいさつの後太田常務理事が、以下の入賞者1人1人に賞状と賞品を手渡されました。入賞おめでとうございます。

＊日本ユニセフ協会会長賞　　1名
＊佐賀県ユニセフ協会会長賞　2名
＊入選　15名　　＊佳作　　14名
＊学校賞　2校　（神埼市立西郷小学校、成穎中学校）

表彰式及び絵の展示

【表彰式】
★日時　2017年11月26日（日）
11:00～11:45
★会場　佐賀城本丸歴史館　御座の間
【当日展示】
★佐賀城本丸歴史館　二の間
10:00～16:00
【一週間の展示】
★佐賀市立図書館　ロビーギャラリー
10:00～16:00

【主催者挨拶】

【入賞者の表彰の様子】

【表彰式会場　佐賀城本丸歴史館】

【学校賞（西郷小）の表彰の様子】

【入賞者の集合写真】

★　特別賞入賞作品

1．日本ユニセフ協会会長賞
【成穎中学校　１年　内橋　茉央さん】

病気の人や人種に関係なくみんなが平等に授業を受けている姿を描きました。（本人のコメント）

2．佐賀県ユニセフ協会会長賞
【みやき町立中原小学校
1年　藤吉　絢香さん】

ちきゅうのうえにたくさんの木や花があるところをかきました。
（本人のコメント）

2．佐賀県ユニセフ協会会長賞
【佐賀県立致遠館中学校
２年　中牟田　あいさん】

亀はガラス（地球）にいて、煙が上がっています。それを人の手で助けようとしています。
（本人のコメント）

★　審査会

◆応募作品の審査を森和幸先生と井上信宏先生にお願い致しました。
　先生方は、1人1人の子どもたちのメッセージと表現された絵を丁寧に見て審査をしてくださいました。お二人の先生からは、「夏季休業中、ユニセフ以外にも作品募集がある中にたくさんの作品が集まり大変良かった。」「絵画の視点とＳＤＧｓの目標のメッセージ性、両面から審査を行った。」などのお話を伺いました。

【1人1人のコメントを確認しながら丁寧に審査をされる様子】

★　作品の展示

【11月26日(日)の展示の様子】佐賀城本丸歴史館において

◆佐賀城本丸歴史館の二の間での作品展示には、**「おもてなし隊」（佐賀七賢人）**の皆さんも見に来ていただきました。
◆「おもてなし隊」の皆さんは、日曜日ごとに明治維新の頃に活躍した佐賀の七賢人（大隈重信や江藤新平など）の偉業を寸劇にして、来館者に紹介をされています。表彰式に来られた皆さんも佐賀城本丸歴史館の館賞も合わせてしていただくことができました。

【12月1日～8日までの展示の様子】
佐賀市立図書館２Ｆギャラリーにおいて

★　表彰式後のミニ研修会
『SDGsって　なあに？』

◆表彰式には、保護者や関係者の方々も多く出席してくださいました。折角お出で頂きましたので**『ＳＤＧｓって　なあに？」**という表題で15分ほどのミニ研修を行いました。説明や動画を見て、参加者の皆さんは“大変勉強になった”と感想を述べられていました。
◆**「世界に広めよう持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）」2016エマ・ワトソンさんによるナレーションの動画**では、発明・イノベーション・キャンペーンの大切さについて実際に課題解決をしている世界中の若者たちが紹介されました。
◆バナナの皮からプラスチックを作ったり、トイレの水が半分で済む発明をしたり、ゴミを減らすためのイノベーションを紹介したり、美しい島をレジ袋から守るキャンペーンに取り組んだりしている様子が紹介されました。

unicef の 仲間たち!

佐賀子ども劇場のみなさん　　―佐賀市―

2017年　さが銀天夜市で「子ども夜市」に参加された佐賀子ども劇場の皆さん

佐賀子ども劇場の成り立ちと理念

◆佐賀子ども劇場は、「子ども達に生きる勇気を培ってほしい」という思いを込めて、1971年、幼稚園の先生方と母親で発足させ、今年で46年目を迎えます。“子どもたちに夢を　たくましく豊かな創造性を”の理念のもとに、子どもを真ん中においた活動を続けています。具体的な活動は、舞台芸術を見る**『鑑賞活動』(例会)**とキャンプなどの**『自主活動』**を2本柱として、仲間を広げ地域と社会を共に創る活動を進めています。

現在、会員数は400人(うち乳幼児会員46人)です。1人1人が会費を出し合い、みんなの手で運営をしています。

例会で観劇や音楽を楽しむ子どもたち

「子ども夜市」でお店を開店し楽しむ様子

夜市の話し合いをする子どもたち

例会では、乳幼児部・低学年部・高学年部に分かれて、発達段階に応じた作品を年間4～5本鑑賞します。生の舞台や音楽を体験することは、五感を磨き創造性や感受性を育みます。

自主活動は、キャンプや子ども夜市など異年齢の仲間で考え作りあげていく活動で、主体性や創造性を育みます。子どもにとって遊びや体験は成長に欠かせないもの。夜市の出店や出し物についても子どもの自主性と発想を大切にしながら、子どもたちが話し合って決めます。7月15日の夜市当日は、手作り品や遊びの店が15店も並び、子どもたちの笑顔と元気な呼び声で会場は活気に溢れていました。

◆今年も「佐賀子ども劇場(子ども夜市)」の皆さんから「子ども夜市」でのバザーの売り上げの一部を「厳しい環境で生活している世界中の子どもたちのために」と佐賀県ユニセフ協会に届けてくださいました。寄付にあたっては、“自分たちは楽しい遊びや何不自由ない生活ができているが、困っている子どもたちに役立てたい”と、今年はユニセフと熊本の震災への寄付をすることに、子ども会議で決めたそうです。日本や世界に目を向ける子どもたちの姿に、佐賀子ども劇場での様々な経験を通して成長している子どもたちの姿を垣間見ることができました。

寄付の様子

◆佐賀子ども劇場もあと3年で50周年を迎えます。その意義を深く感じているところです。鑑賞活動と遊ぶ中で人は育つ。50周年はいろんな人の思いが詰まって『遊ぶ中で生きる力を身につけてほしい。』というテーマができました。今は乳幼児からの育ちが大切です。若いお母さんたちが元気になるように仲間の輪を広げて楽しい場にしていきたいと思います。

(語り：佐賀子ども劇場事務局長　柿本様、　取材：江島きよ子)